

第 26 期

運用報告書(全体版)

セクターインデックス10

(業種選択型)

セクターJ (マネープール)

【2015年11月24日決算】

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

皆様の「セクターJ (マネープール)」は、2015年11月24日に第26期決算を迎えましたので、期中の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

 **岡三アセットマネジメント**

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-8-1

お問い合わせは弊社カスタマーサービス部へ
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

【ホームページ】

<http://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はおお客様のご負担となります。
※機種により本サービスをご利用いただけない場合があります。



当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／債券
信託期間	1989年11月22日から、原則として無期限です。
運用方針	本邦通貨表示の公社債およびわが国の金融商品取引所に上場（上場予定を含みます。）されている株式を主要投資対象とし、安定した収益の確保をはかることを目的として、安定運用を行います。
主要投資対象	本邦通貨表示の公社債およびわが国の金融商品取引所に上場（上場予定を含みます。）されている株式を主要投資対象とします。
投資制限	外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎年11月21日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた配当、利子収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。原則として配当等収益は全額を分配し、売買益は基準価額水準・市況動向等を勘案して分配します。分配金は、税金を差し引いた後、再投資いたします。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

○最近5期の運用実績

決算期	基準 (分配落)	基準価額			債 組 入 比	券 率	債 先 物 比	券 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 金 騰 落					
	円		円		%		%		百万円
22期(2011年11月21日)	9,963		0		△0.0	—	—		0.194740
23期(2012年11月21日)	9,960		0		△0.0	—	—		0.194686
24期(2013年11月21日)	9,957		0		△0.0	—	—		0.194627
25期(2014年11月21日)	9,954		0		△0.0	—	—		0.194563
26期(2015年11月24日)	9,949		0		△0.1	68.2	—		1

(注) 基準価額および分配金（税引前）は1万円当たり、基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

(注) 当ファンドは、特定の指数を上回るまたは連動する成果を目指した運用を行っていません。そのため、特定のベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

(注) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

○当期中の基準価額と市況等の推移

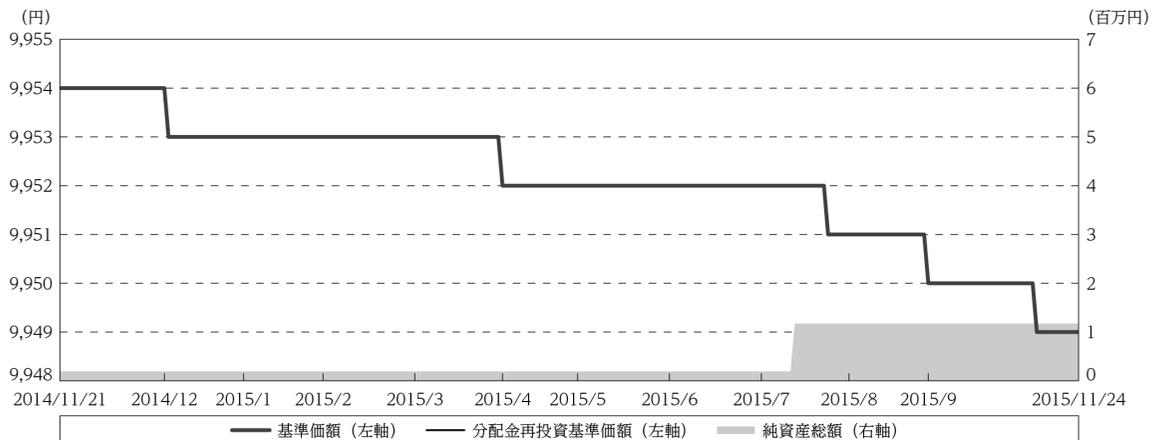
年 月 日	基 準	基準価額		債 組 入 比	券 率	債 先 物 比	券 率
		騰 落	率				
(期首) 2014年11月21日	円		%		%		%
	9,954		—		—		—
11月末	9,954		0.0		—		—
12月末	9,954		0.0		—		—
2015年1月末	9,953		△0.0		—		—
2月末	9,953		△0.0		—		—
3月末	9,953		△0.0		—		—
4月末	9,952		△0.0		—		—
5月末	9,952		△0.0		—		—
6月末	9,952		△0.0		—		—
7月末	9,952		△0.0		—		—
8月末	9,951		△0.0		68.2		—
9月末	9,950		△0.0		68.2		—
10月末	9,950		△0.0		68.2		—
(期末) 2015年11月24日	9,949		△0.1		68.2		—

(注) 騰落率は期首比です。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2014年11月22日～2015年11月24日)



期首：9,954円

期末：9,949円 (既払分配金(税引前): 0円)

騰落率：△ 0.1% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2014年11月21日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・特にありません。

(主なマイナス要因)

- ・信託報酬等のコストがマイナス要因となりました。

投資環境

(2014年11月22日～2015年11月24日)

短期金融市場は、国債需給のひっ迫感が強く意識されたことや、世界的な物価上昇圧力の弱まりを背景に、2014年12月下旬にかけて1年国債利回りが-0.03%台まで低下しました。しかし、日銀の追加金融緩和期待が後退したことから、過度な需給のひっ迫感が和らぎ、1年国債利回りは2015年3月末には、0.04%へ上昇しました。4月以降は、マイナス水準へ低下する場面もありましたが、概ね0.01%を挟んで推移しました。ただ、11月中旬以降は、日銀による短期国債の買入れに加え、外国人投資家によるわが国の短期債を買う動きが強まり、1年国債利回りは急低下し、マイナス水準で期末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

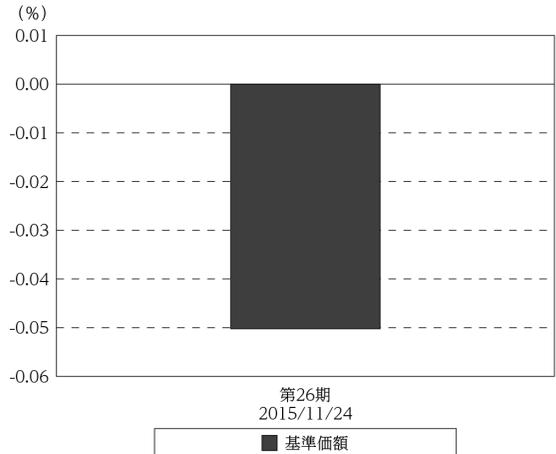
(2014年11月22日～2015年11月24日)

残存元本の減少および資金の流動性の確保等を考慮し、短期金融商品（コール・ローン）での運用を行ってまいりましたが、期中に追加設定があったことから、新たに債券を組入れました。当期末の債券組入比率は68.2%となっております。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2014年11月22日～2015年11月24日)

当ファンドは、特定の指数を上回るまたは連動する成果を目指した運用を行っていません。そのため、特定のベンチマークおよび参考指数を設けておりません。右記のグラフは、期中の当ファンドの基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

分配金

(2014年11月22日～2015年11月24日)

当期の分配金につきましては、ファンドの基準価額水準等を考慮して、見送らせて頂きました。なお、留保益の運用につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(分配原資の内訳)

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第26期
	2014年11月22日～ 2015年11月24日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	165

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

来期にあたりましては、引き続き運用の基本方針に則り、純資産の水準などを考慮しつつ、公社債などへの投資により、安定した収益の確保を目指した運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2014年11月22日～2015年11月24日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 11	% 0.109	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(4)	(0.044)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(4)	(0.044)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.000	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	11	0.109	
期中の平均基準価額は、9,952円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2014年11月22日～2015年11月24日)

○売買及び取引の状況とは、ファンドが購入・売却した有価証券の数量および金額です。

公社債

		買 付 額	売 付 額
国 内	国債証券	千円 802	千円 -

(注) 金額は受渡金です。（経過利子分は含まれておりません。）

(注) 単位未満は切捨てです。

○利害関係人との取引状況等

(2014年11月22日～2015年11月24日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2014年11月22日～2015年11月24日)

期首残高 (元本)	当期設定 元本	当期解約 元本	期末残高 (元本)	取引の理由
円 99,765	円 985,439	円 —	円 1,085,204	商品性を適正に維持するための取得

○組入資産の明細

(2015年11月24日現在)

国内株式

株式の組入れはありません。

国内公社債

(A) 国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	千円 800	千円 801	% 68.2	% —	% —	% —	% 68.2
合 計	800	801	68.2	—	—	—	68.2

(注) 組入比率は、当期末の純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 額面金額・評価額の単位未満は切捨てです。

(注) BB格以下組入比率は、S & PとMoody'sの信用格付けのうち、高い方を採用しています。

(注) —印は組み入れがありません。

(B) 国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄	当 期				末
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日	
国債証券 第98回利付国債(5年)	% 0.3	千円 800	千円 801	2016/6/20	
小 計		800	801		
合 計		800	801		

(注) 額面金額・評価額の単位未満は切捨てです。

○投資信託財産の構成

(2015年11月24日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 801	% 68.2
コール・ローン等、その他	374	31.8
投資信託財産総額	1,175	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨てです。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2015年11月24日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,175,224
コール・ローン等	372,867
公社債(評価額)	801,384
未収利息	612
前払費用	361
(B) 負債	342
未払信託報酬	341
その他未払費用	1
(C) 純資産総額(A-B)	1,174,882
元本	1,180,901
次期繰越損益金	△ 6,019
(D) 受益権総口数	1,180,901口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,949円

(注) 運用報告書作成時点では、監査未了です。

(注) 計算期間末における1口当たり純資産額は0.9949円です。

(注) 純資産総額が元本総額を下回っており、その差額は6,019円です。

(注) 当ファンドの期首元本額は195,462円、期中追加設定元本額は985,439円、期中一部解約元本額は0円です。

○損益の状況 (2014年11月22日～2015年11月24日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	612
受取利息	612
(B) 有価証券売買損益	△ 624
売買損	△ 624
(C) 信託報酬等	△ 377
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 389
(E) 前期繰越損益金	△ 228
(F) 追加信託差損益金	△ 5,402
(配当等相当額)	(19,318)
(売買損益相当額)	(△24,720)
(G) 計(D+E+F)	△ 6,019
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△ 6,019
追加信託差損益金	△ 5,402
(配当等相当額)	(19,318)
(売買損益相当額)	(△24,720)
分配準備積立金	263
繰越損益金	△ 880

(注) 損益の状況の中で、(B)有価証券売買損益は期末の評価替えによるものを含みます。(C)信託報酬等には消費税等相当額、監査費用を含めて表示しております。(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金

決算期	第26期
(a) 配当等収益(費用控除後)	235円
(b) 有価証券等損益額(費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	19,318円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	28円
分配対象収益(a+b+c+d)	19,581円
分配対象収益(1万口当たり)	165円
分配金額	0円
分配金額(1万口当たり)	0円

用語解説

○資産、負債、元本及び基準価額の状況は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
資産	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等(評価額)	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
負債	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
純資産総額(資産－負債)	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額(翌期に繰り越す損益金の合計額)です。
受益権総口数	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

用語解説

○損益の状況は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
配当等収益	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
有価証券売買損益	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
信託報酬等	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それに掛かる消費税等相当額です。
当期損益金	当期における収支合計です。
前期繰越損益金	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
追加信託差損益金	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
計	収益分配前の期中の収支の総合計です。
収益分配金	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
次期繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
分配準備積立金	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の額です。

〈お知らせ〉

- ・法令諸規則の改正に伴い、投資信託約款に所要の変更を行いました。（実施日：2014年12月1日）
- ・弊社は、資産運用・リスク管理態勢の高度化等への取り組みを一段と強化すべく、2015年4月1日付けで運用部門に関し以下の組織変更を行いました。
 - ①運用企画部の新設
 - ②投資調査部を投資情報部に改称
 - ③運用各部を投資対象資産別に再編
 - ④トレーディング部を運用本部から分離